



The YMCA Journal

February, 2010 Vol. 3

www.kagoshima-ymca.org

■発行/一般財団法人鹿児島YMCA 〒890-0056鹿児島市下荒田2-39-22 Phone099-285-0700 ■発行人/谷村義博 ■2010年2月12日発行(毎月1回発行) ■定価50円(送料76円) ■印刷/洲上印刷株式会社

YMCA法人賛助会会員社 社員向け 特集号

会員企業の社員・職員の皆さま、ようこそYMCAへ YMCAと共に社会貢献をめざす《法人賛助会》設立総会を開催



設立総会の風景

「昨年10月鹿児島に個人会員によるYMCAが創立され、今回法人会員が加わったことで鹿児島YMCAの基礎がますます強固なものになってきました。これからの企業は経済的な利益追求だけでなく、消費者や地域社会などすべての利益関係者に配慮した経営姿勢が求められてくると思われる。私たちYMCAはこうした企業の社会貢献活動に少なからずお手伝いできるのではないかと思います」

徳田穰鹿児島YMCA議長の開会挨拶で始まった「鹿児島YMCA法人賛助会」の設立総会が1月22日午後4時から、鹿児島サンロイヤルホテルで開催されました。

会員企業・団体30社から日本ガス会長佐藤敏郎さんをはじめとする代表47人が総会に出席。午後6時20分の閉会まで、熱心に話に聞き入ってい

た姿が印象的でした。

まず、日本社会事業大学専門職大学院講師坂口順治氏が「YMCA運動－若もの、企業、地域をつなぐ社会的貢献」と題して講演が行なわれました(内容は2面に掲載)。YMCA発祥の地イギリス、最大の規模を持つアメリカでの経験を持つ坂口氏が、YMCAが果たす社会的な役割について話しました。

講演に続き、熊本YMCA堤弘雄総主事による「熊本YMCAと企業ボランティアの実例」プレゼンテーションが行なわれました。熊本では法人賛助会を「フィランソピー協会」の名称で45の会員企業が参加しています。会員社の年間を通して活動の様子を、パワーポイントを使って、堤さんから具体的に紹介しました。

参加した企業担当者の一人は「今まではYMCAについて漠然とした知識しかありませんでした。大いに役立つ講演でした。また、熊本での実例は、私たちがこれから鹿児島で行なう活動についてのイメージができました」と語っていました。

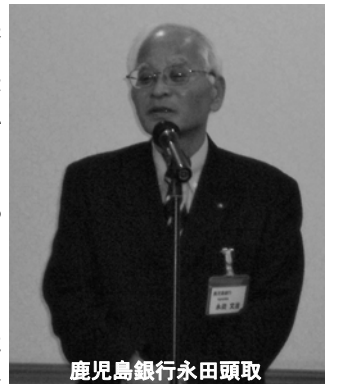
続いての設立総会では谷村義博鹿児島YMCA総主事(取扱)が議長に選出され議事を進行。法人賛助会の会則が検

討され、数箇所の修正を加えることで決議され、無事総会を終了しました。

午後6時30分から会場を移し、会員同士の親睦を深める目的で懇親会が開催されました。谷村総主事(取扱)が主催者を代表してお礼を述べた後、幹事社を代表して鹿児島銀行頭取永田文治さんが挨拶。

「一社でやるより、30社がいっしょになっておこなえば、大きな力となる社会貢献ができます。小さく生んで大きく育てましょう」と、出席者に力強い口調で呼びかけました。

その後、加根又本店代表取締役社長菅徳太郎さんの乾杯の音頭で懇親会が始まり、会員同士が和やかに親交を深めました。



鹿児島銀行永田頭取



初めての出会いを楽しむ懇親会

《YMCA法人賛助会 参加企業および団体名》一次募集分

- 幹事社 南国殖産株式会社 日本ガス株式会社 株式会社鹿児島銀行 セイカ食品株式会社 薩摩酒造株式会社
- 会 員 鹿児島国際観光株式会社 株式会社南日本銀行 株式会社土佐屋 株式会社加根又本店 株式会社 Misumi
城山観光株式会社 株式会社島津興業 株式会社しんぷく 本坊酒造株式会社 株式会社カクイックス
鹿児島信用金庫 鹿児島トヨタ自動車株式会社 日本澱粉工業株式会社 トヨタカローラ鹿児島株式会社
鹿児島相互信用金庫 株式会社南日本新聞社 株式会社南日本放送 鹿児島日産自動車株式会社
太陽運輸倉庫株式会社 洲上印刷株式会社 株式会社山形屋 鹿児島トヨペット株式会社
- 特別会員 日本赤十字社鹿児島県支部 日本ボーイスカウト鹿児島県連盟
- 協力会員 鹿児島ワイズメンズクラブ

記念講演『企業とYMCAが協働する社会貢献』について語る

坂口順治先生紹介

東洋大学教授、立教大学教授、平安女学院学長を経て、現在、日本社会事業大学専門職大学院講師、とげぬき生活館館長。日本生涯教育学会会長、日本社会経済生産性本部委員を歴任。この間、政府の婦人少年問題審議会委員、文部科学省、厚生労働省などの諸委員を担う。現在、厚生労働省「若者自立塾」専門委員会座長、日本生涯教育学会常任顧問。

『ICA法人賛助会』設立



YMCAというと、西城秀樹の歌「ヤングマン」。松井秀樹のいたニューヨークヤンキーススタジアムでは試合の途中に、必ずYMCAの音楽がかかり、観客がストレッチ体操しておりました。私のいた大学の学生諸君も、YMCAに関する認識はその程度のものでした。ところが、YMCAというのは、いろんな意味で新しい展開をしていることを、今日ちょっとお話しさせていただきたいと思います。

■鹿児島県の風土

鹿児島は歴史的、地理的風土と薩摩人の性格が新しい文化価値を受容し時代的先見性を導き出していく特徴があります。その例を3つ挙げます。奈良時代の鑑真和尚が秋目に上陸されて、新しい仏教や生活文化を日本に伝えられました。それを受け容れさらに遣唐使の派遣の港になって積極的に新文化の創造に寄与しました。2つ目はフランシスコ・ザビエルの上陸です。この鹿児島市に十字架をかがげて上陸しました。住民はこぞって歓迎しました。魔よけの印であり、新しい文化の伝来を受容したのです。3つ目は、日露戦争の時、東支那海を北上するバルチック艦隊の動向をいち早く東京に電話連絡して、勝利に導く要因になりました。情報革命を利用した勝利でした。

このように、薩摩は文化の包容性、歴史の新しい流れを読み解く感受性、そして実行力に秀でたものがあります。ソーシャル・アドバンスという時代社会の先見性があります。

■YMCA運動の起こり

YMCAの運動は、薩摩の風土と同じような、時代社会の先見性をもってスタートしたと言えます。1830年代のイギリス、産業革命の真っ只中、日本では、第二次世界大戦後の農業社会から工業社会に変わるように、イギリスの農村地方の若ものが都市に集中して重工業に従事させられました。この産業革命のために若ものは痛めつけられました。家族から離れて、極悪な労働条件、不衛生な生活環境、不道德な心身状況、と若ものたちは心身ともに堕落していくものが多いました。そこで、働く若ものたちを救済しようと、多くのボランティア団体が立ち上がりました。慈善事業団体、救済活動団体など多くの組織が関りました。その中の1つがYMCAでもあったわけです。しかし、YMCAだけ違っていました。若ものと年齢差のない有志の青

年たちが、友だちになりながら、衛生面、勤務時間、衣食の問題、身体的健康、精神的相談などを一緒に考えて解決に結びつける活動をしました。今でいえばメンターと呼ぶことができれば。他の多くの慈善団体が、一時的な施しをして衰微していったのに反して、YMCAの活動は共に生活する仲間の相互連帯を軸にして展開されていきました。1844年にロンドンに設立されて、数年後にはアメリカに同じ志をもった若ものたちが、アメリカYMCAを設立しています。また、YMCAの運動に初期から参加した人たちによって国際赤十字の運動が生まれたのも一人一人を大切にする精神が伝わったからです。それを私は「地の塩」の運動と呼んでいます。地は塩がないと固まりません。人の目に見えないけれども、土地が砂漠にならないために固める働きをしています。これと同じように、人のため地域のために貢献する働きをするのが私たちの運動です。

日本でのYMCA運動は、九州熊本から始まりました。もちろん明治維新によってキリスト教が解禁になってからです。熊本洋学校の生徒たちが、花岡山で熱い祈りをしました。開国日本の将来を憂い、団結して社会のために尽くそうと決意したのであります。これが熊本バンドの始まりです。その影響を受けた若ものたちは同志社に学び、日本の各地にYMCAの運動が展開していきました。若い人たちと共に人生を歩むYMCAボランティア活動、これが歴史を貫いています。

ボランティア活動は、自発性、無償性、公共性、先駆性をもった有志の活動です。YMCAは創立以来、地域社会に若ものを通してボランティア活動を展開してまいりました。15年前の阪神淡路大震災の救済活動では、YMCAも活躍をいたしました。倒れた家を守るために集会所に行けない年老いた人たちに戸別訪問の「御用聞きボランティア」を展開しました。自発的で創造的なアイデアを出して、企業のボランティアの人たちと協働活動で町の人に喜ばれました。公共的な活動が企業の人たちと共にできたのでした。地域に結びついた活動をしていける喜びを経験しました。

■企業のボランティア活動

時代の流れはこの10年の間に大きく変わりました。政治、経済、社会、地域社会、教育、福祉のどの分野を取り上げても歴史的変革を遂げつつあります。政治は、新自由主義のグローバリゼーションから公共的資本主義と呼べる社会民主主義型の多極主義になりつつあります。経済は金融本位のあり方の反省から脱却するための模索が続いています。社会は情報ネット社会になり、世界を小さくし共通普遍性の時代が到来しつつあるようです。それによって人々の生活も変化しつつあります。地域社会は農村社会、土地に根ざした血縁地縁のつながりから、会社縁やネット縁と呼ばれる時代になり、共生共同生活体の人間関係が問われていま

す。教育は学校教育から全生涯に渡る学習という理解に変化しました。福祉は、慈善救済の思想から人権擁護思想に基づいた人間自律福祉を展開しています。

企業のあり方も大きく変貌しました。私的な利潤を追求するだけという組織ではありません。儲けたら社会的還元をするという、寄付や慈善事業の協賛活動に加えて、企業活動それ自体が社会的公共性をもつ時代になりました。企業の経営理念、社会的時間の活用、ネット・ワークをしながら、社会奉仕活動から社会創造へと変化しつつあります。1%クラブやノブルズ・オブリージュ、フィランソフィやCSR(企業の社会的貢献活動)と、企業が社会的公器として位置づけられてきました。この変化は、企業活動が地域社会の公共性をもったことを示すものであります。

YMCAの運動は地域の公と私の活動をつなぐ橋渡しをしながら、若ものを育てています。企業は地域社会に根ざした活動をしながら、いつも新しい発想、時代的先見性、創造的な発想をもって活動をしています。この両者の活動を結びつけて、地域社会の公共的貢献を具体的に推進していきたいものであります。幸いにも熊本YMCAの市民社会と企業の協働活動の具体例が紹介されますが、このような活動が鹿児島のこの地で展開されることを希望しています。

■鹿児島の地で育む社会貢献

鹿児島の土地柄は、YMCAのもっている精神とソーシャル・アドバンスの先見性が備わっています。地域社会に根ざした地産地消型の企業は、人々の暮らしにいかに役立つか、幸福な生活に貢献できるかを考えています。それはYMCAの運動といかに親密に連携するかによって具体的な活動が生まれてくると私は思います。カントは「人を手段としてだけ扱うな、目的として扱え」と言いました。目的として扱った場合には、相手に尊厳が備わるが、手段として扱った時には、値段がつくだけであると述べています。人間性の尊厳がない社会貢献は人に値段をつけて、使い捨てにする道具になるだけです。YMCAと地域の企業は手を取り合って、人々を尊重して幸せを実現する明日に向かって具体的な活動を行いたいものです。

YMCAの標語に「明日のリーダーは今日つくられる」というのがあります。次の時代を担う若ものと共に、企業活動が地域社会の中で公共的貢献になることを望んでやみません。

年会費は月500円から

YMCA個人会員
として参加ご希望の方は

資料請求は☎099-285-0700

We Need You ! 未来につながる、あなたのちから



いま企業に社会的責任を果たすことが求められています

日本における経済成長期は、企業利益の優先。株主、社員、顧客に対する責任だけが強調された時代がありました。近年、CSR(企業の社会的責任)の考え方が国際的に高まっています。企業の企業倫理、コンプライアンスなど内部的な面から、環境問題、社会貢献と幅広く企業の責任を問われる境界線が広がっています。

しかし、一企業では限界の分野があるので、企業間の連帯が必要とされ、市民の力を借りなければできないこともあります。企業には金銭の寄付や物品提供だけではなく、社会に対しての人材や技術、ノウハウの提供など、社員のボランティアと結びついた活動が必要とされています。

また、YMCA法人賛助会員社の社員の方々が、地域や社会との関わりを持つことで、企業のイメージアップにつながり、強いては社会や取引先、消費者の信頼を高めることになります。

社員一人ひとりの意識がまず大切

福祉、教育、環境、国際理解、青少年、災害… 私たちが住む地域社会や地球には、さまざまな課題や問題があります。ボランティア活動や市民活動は、社会が抱える課題を市民が自発的に解決する営みです。

落ちていたゴミを拾って町をきれいにしたり、地域のお祭りを手伝ったり、お年寄りや障害を持っている人の介助など身近なことから、戦争が起きている国に行って難民を助ける、今回のハイチ大地震の災害援助のような国際的なボランティアまで、さまざまな活動があります。

わたしたちの身のまわりには、家族、職場の友人、おなじ町に住んでいる人など、たくさんの人たちがいます。そのなかには、いろいろな事情でやりたいことができずに困っている人がいます。みんなが楽しく暮らしていくためには、できる範囲で少しずつ助け合うことが必要。これがボランティアです。人間だけでなく、たいせつな地球の自然を守るためにも助け合いは必要です。

誰もが暮らしやすい豊かな社会を実現するため、皆さんもボランティア活動・市民活動に参加してみませんか？

まず職場を通して活動を始めてみましょう

皆さまがお勤めの会社が、このたび鹿児島YMCAの法人賛助会員としてご参加いただくことになりました。

以前は、ボランティアは余裕のある人が、困った人に施しをするという誤った考えがありましたが、今では若者を中心に、社会のため働きたい、役に立ちたいという声をよく聞くようになりました。しかし、一方ではどのようにボランティアに関わっていけばよいかわからないという人も多いようです。

まず、職場の同僚たちといっしょに、少しずつ、YMCAのボランティア活動から始めてみませんか。YMCAでは、年間を通して計画されたいろいろなボランティア活動を、職場の担当部署を通して紹介していきます。

高齢者や障害者への福祉ボランティア、リサイクルなどの環境ボランティア、清掃などの地域ボランティア、海外支援の国際ボランティア、国内外の災害ボランティアを活動していく予定です。

また、他社の社員との交流を兼ねたチャリティー

イベントなども企画していきます。これらのご案内は、各社によって異なりますが、社内や食堂などにポスター掲示やチラシの配布、事務局が発行する機関紙などでお知らせすることになります。

自分のためにという考えも必要

ボランティアは自分の就業時間後や休日を使う勤務外の活動です。また回りから強制されてするのは、ボランティアの自発性という定義から外れます。あくまでも自分の意思で行なうもの。決して無理をせず、長続きすることが大切です。

最後に、前号での評議会田上容正会長の新年挨拶の一部を紹介します。「人は命ある限り、生きるという意義を見つけて、何らかの価値観をもつことが大切です。ボランティアの仕事は、人に奉仕すると同時に、自分自身を見つめ、そして、自分自身を磨くことになります。つまり、自分自身を創造することにほかならないのです。そこには、いろいろな人に接する時、本当に優しい心が生まれてくるはずです。このような思いでボランティアに取り組めば、きっと楽しいものになるのではないのでしょうか。」

あなたと働くYMCAとは？

■YMCAはYoung Men's Christian Associationの呼称。宗教、国家、民族、人種の隔たりを超えた、世界最大・最古のボランティア青少年団体です ■YMCAは1844年、イギリスの産業革命のさ中、ロンドンでジョージ・ウィリアムスを中心に12名の青年によって始まった運動です。■設立後たちまち世界に広がったYMCAは、1855年、9カ国38のYMCAが参加して第一回世界YMCA大会がパリで開催され世界YMCA同盟が結成されました ■そのなかには、その後国際赤十字社を創立したアンリ・デュナンもいました

■世界122カ国にYMCAはあり、4,500万以上の会員数があります。その中でもアメリカが最大の組織で、年々会員が増加し、現在、アメリカ国内2,686都市に2,100万人の組織を持ち、地域社会において重要な役割を果たしています ■スイスのジュネーブに本部がある世界YMCA同盟は、国連において議決権のある議席を持つNGOとして国際的に影響力を持っています ■YMCAのなかから、二人がノーベル平和賞を受賞しています。またバスケットボール、バレーボールのスポーツ種目はアメリカYMCAで考案されたことでも知られています ■1880年、日本で最初のYMCAが東京で組織化、その後大阪、横浜、神戸にYMCAが設立されました。また、1888年には最初の学生YMCAが、東京大学に発足しました ■当時YMCA活動を興した青年の中には、内村鑑三、新渡戸稲造、新島襄などもいました。「青年」という日本語の言葉を最初に用いたのも、東京YMCAの創立者のひとりです ■YMCAは日本の近代化に大きな影響を与え、語学教育や専門学校、スポーツジム、屋外活動などがわが国に取り入れられました。またキャンプ、バスケットボール、スキューバダイビングは日本のYMCAによって紹介されました ■現在日本には、35の都市YMCAと35の大学YMCAが活動しています。1,142人の役員・委員(方針決定に関わるボランティア)と、4,800人のユース・ボランティア(青少年にプログラム指導)、そして約2,400人の職員と4,700人の非常勤職員が働いています ■YMCAプログラムには、100,000名が参加しています ■日本のYMCA会員(趣旨に賛同して会費を納める)は、個人会員約14,000人。法人会員は843社。また、YMCAのパートナー(協力者)としてワイズメンズクラブ国際協会と、各国の在日大使や外資系企業を中心にした賛助団体を持っているのもYMCAの特徴のひとつです ■長年日本におけるYMCA活動実績から、日本の教育法の第3章社会教育関係団体の第10条、社会教育関係団体判定基準に、PTAや図書館、公民館連絡協議会とならんでYMCAの名が法律にうたわれています ■そして、鹿児島YMCAは昨年10月、日本で35番目に創立した、もっとも新しいYMCAです



プログラムの事業収益は、YMCA活動目的のために使われます。

ファミリーで楽しもう! YMCAで学んで遊ぼう

昨年10月創立した鹿児島YMCAでは、4月より青少年のための育成プログラムを開始します。開講日や参加費などの詳細については、現在最終調整中です。プログラムに関心をお持ちの方は、099-285-0700までお問い合わせいただくか、www.kagoshima-ymca.orgにアクセスください。

4月から始まる
いろいろなプログラム
準備中! 一部を紹介
詳しくはお電話を!

YMCAサッカーチーム結成のための



サッカースクール

アメリカYMCAが生んだスポーツ

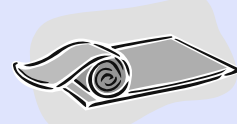
少年バスケットチーム



チーム結成を計画中です。詳細はお電話で

ちびっ子体操教室

YMCAスタッフ永原幹彦(健康運動指導士)がマットや跳び箱などを指導。楽しく体を動かしましょう



対象: 幼児から小学生まで
会場: YMCA講堂
週1回

いま、こどもたちに人気のスポーツ

チアダンス教室



会場: イオン鹿児島店
毎月3回(金曜日)
18:00~19:00クラス
19:00~20:00クラス

インストラクター 松若 容子

第二会場としてYMCA講堂での教室も計画中

ちびっ子えいご教室

インターナショナルスクールの
経験とノウハウが生かした

対象: 幼児から小学生まで



体を動かしなら英語を学ぶ 英語体育教室

講師: ジェイ(元プロバスケット選手)

対象: 幼児から小学生まで

会場: YMCA講堂

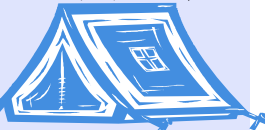
週1~2回



英語で過ごす4泊5日

キッズ・イングリッシュ サマーキャンプ

夏休み期間に実施
外国人リーダーと寝食を共に
英語だけで過ごす宿泊学習



元MBCベテラン・アナウンサー

中松禎夫の

日本語の話し方教室 アナウンス教室

毎月3回 会場: YMCAルーム



大人向けのプログラム

語学教室

- ★ママとグランマ向け英語教室
- ★一般向け英語教室
- ★海外旅行実践英語教室
- ★外国人向け日本語教室
- ★企業派遣英語教室 など

日帰りフィールド・トリップ

デイ・キャンプ



3月の春休み、GW、夏休み、
冬休みの期間に、野外アク
ティビティーで一日お子さま
をお預かりします。

米国人プレイヤーによる子供向け

テニス体験レッスン



対象: 小学生

レッスン期間: 4月から7月末まで

週1~2回 3名程度の小グループ

英語のレッスンにもなります



鹿児島YMCA所属 ボーイスカウト 鹿児島22団

活動は週末(月1~2回)と長期休み期間

●ビーバー・スカウト(幼稚園年長から)

●カブ・スカウト(小学校2年から)

●ボーイスカウト(小学校5年から)

女の子も入団できます

ボランティア募集

■子供が大好きで、スポーツや自然が大好き、情熱にあふれたユースリーダー(若者指導者)。

■各種プログラムをお手伝いいただく主婦のボランティア

■退職者の技能や能力を活かしてのボランティアをお考えの方

■ボランティアをしたいどなたでも

英語で園生活を楽しむ、定評ある米国のカリキュラムで7年の実績。

2010年度 園児募集

●1歳半からの未就園児クラス ●年少から年長までの幼稚園クラス ●小学生のアフタークラス

鹿児島YMCAインターナショナルスクール

鹿児島市下荒田2-39-22 ☎099-285-0700 www.kagoshima-ymca.org

